



第 37 号

発行者 武義高等学校  
同 窓 会

題 字 藤 田 多 美  
(高21回)

梅は	霜雪を	うま	【伝統訓】	【校 訓】
清香を	経て	おくせ		
発す		ず		
		たくま		
		しく		



同窓会会頭 土本 恭正  
(高28回)

同窓会の皆様におかれましては平素より古城会に対しご協力をいただきありがとうございます。

昨年(1月1日)の石川県能登半島の大地震で幕開け。さらに石川県の皆様にはまだまだ復興半ばだというのに九月には豪雨による被害も重なり大変な状況となりました。しかし、暗いニュースばかりではありません。大谷翔平選手が MVP を獲得するほどの大活躍は日本中を明るくしてくれました。パリ五輪でも日本は四十五個のメダルを取る大活躍。中でも注目したのが北口榛花選手のやり投げの金メダルです。体格がものをいう競技で日本人が世界一なんてすごいことだと感激しました。



理事会の様子 (於: 武義高校)

さて、武義高校に目を向けると今年の古城会総会でも発表してくれましたが美濃市役所にて「未来創造課」が発足しました。これは武義高校の生徒六人が毎週金曜日の午後から市役所へ出向き美濃市に対する提言をするというものです。高校生が市役所へ出向して勤務するというのは日本で武義高校だけの試みと

なりました。

八月の市民花火大会では有料観覧席の設置を提言し実施されました。観覧席は売り切れとなるなど好評でした。これは全国各地で花火の有料観覧席が広がる中、美濃市のような規模で実施して果たしてうまくいくかどうかと観光協会が危惧していた点を生徒たちが後押しした格好となり成功しました。十月には武義高校にて「美濃市体験型防災フェスタ in 武義高」を開催。従来の大人目線のイベントとは違い、幼児や児童も楽しめる防災フェスタとなり、来場者も千人を超える大盛況となりました。私も参加しましたが高校生の発案は一味違うなと感じました。後輩たちの活躍を目の当たりにしてうれしく思いました。一年目としては文句なしの大活躍です。この「未来創造課」は来年も継続されますので来年はどんな提言を美濃市にしてくれるのか楽しみです。

武義高卒業生の皆様、今年も生徒たちの活躍を応援しようではありませんか。



校長 加藤 信男

日頃より本校の教育活動に深いご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。武義高等学校の校長として赴任してから早いもので二年が経過しました。この間、多くの貴重な経験を積み、教育者として成長することができました。この場を借りて、同窓生の皆様をはじめ、関係者の皆様に感謝の意を表します。

この二年間を振り返ると、世界情勢や社会の急激な変化を実感する中においても、教育の重要な使命を遂行できたことは、温かい同窓生の皆さんや優秀な職員に支えられたおかげであり、チーム武義高の成果であると思えます。本校の教育方針は、次世代を担う若者を育てることであり、単に知識を伝えることにとどまらず、地域との連携を深め、生徒が自ら成長できる教育環境を整えることにあります。私たちは「美濃市未来創造課」などの様々な取り組みをとおして、生徒たちの「学びたい」という意欲を引き出し、彼

らの自走力を育てていると確信しています。現在の学校教育の背景には、戦後に制定された教育基本法があり、同法の制定は、明治政府による学制公布に続く教育改革となりました。富国強兵や経済成長を目的とした過去の国家的目的を達成するための大量生産型ともいえる教育方法から、個人の尊厳と能力を尊重する教育方法へと転換を遂げました。これは、知識の習得にとどまらず、「個別最適な学び」や「協働的な学び」をとおして、各生徒が自ら学び、成長する力を養うことが求められていると解されます。孔子は『論語』の中で「これを知る者はこれを好む者に如かず、これを好む者はこれを樂しむ者に如かず」と説いています。今後とも生徒たちは、地域教育力に支えられ、学びの「知る」「好む」「樂しむ」の三段階を経ることで、自分の力で未来を切り拓く力を身につけてくれるものと信じています。

本校では、地域との協同をとおして生徒の経験知(値ではない)を豊かにし、学びを実践に活かす力を育ててきました。ジョン・F・ケネディが「教育の最大の使命は、次世代を輝かせることだ」と述べたように、私たちの使命は次世代の輝かしい未来を創り出すための教育であり、これは教育の本質でもあります。この理念を心に刻み、

これからも生徒たちの自立を促し、彼らが社会に貢献できる力を身につけられるよう努めてまいります。

最後に、本校が築いてきた伝統と誇りは受け継がれ、さらなる発展を遂げるものと確信しています。同窓会の皆様には引き続き本校へのご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 東京古城会の活動

東京古城会 会長

野倉 学

(高22回)

長いコロナ禍が終わり、ようやく普通の日常が戻って来た令和六年度でした。東京古城会は四年ぶりの総会開催に向け春先より幹事が集まり開催の準備を始め、令和六年六月八日(土)に東京四谷の「主婦会館」で開催いたしました。土本古城会会頭、加藤武義高校長、島田美濃市教育長のご来賓の方々を含む三十五名の出席者による開催となりました。

総会の冒頭には武義高出身の五十川幸宏氏(高23回)より「航空機に使われる炭素繊維複合材料の自動車への適用について」と題する講演をいただき、知見を深めることができました。そしてご来賓の方々より美濃市や

武義高の現状などのお話をお聞きして出席者の皆さんは故郷を懐かしんでいました。コロナ禍が終わり久しぶりの総会開催ということや会員の高齢化も伴い出席者が少なかったことは残念でした。それでも皆さん楽しく歓談されて最後に武義高校歌を全員で合唱したのち記念撮影を行い無事終了しました。

令和七年度の東京古城会総会は六月七日(土)に東京四谷の「主婦会館」で開催する予定です。一人でも多くの同窓会員の皆様にご参加いただきたいと思います。

東京古城会ではホームページを開設しており、総会の内容紹介や東京で開催される美濃市のイベントなどを案内するツールとして活用しています。スマホやパソコンで「東京古城会」と検索して一度ご覧ください。

### 名古屋古城会の活動

名古屋古城会 会長

山口 啓三

(高13回)

名古屋古城会は、総会懇親会を隔年で開催すると定めており、前回令和五年五月に開催しているため、今回は令和七年五月を予定しています。しかし、役員や会員の高齢化と新規会員

の加入がなく組織は衰退方向にあり危機感を抱いているところであり、次回総会の開催方針を決めるための役員会も高齢や健康上の理由などにより欠席者が多く、役員会自体の開催が危ぶまれる状態に陥っているのです。

このため、とにかく新会員を募ろうということで、本校の事務局のご協力をいただいて、六〇歳前後の三六回から四〇回までで六十八人の方が愛知県内に居住してみることが判り、これらの方に昨年七月に一齐に名古屋古城会入会の案内を発送しました。結果は悲劇的で入会者は一名のみでした。一片の文書による入会案内では無理があることを思い知らされたのであります。今後は本校古城会や現会員のご協力を得ながら人脈等による勧誘が不可欠と思っております。

昭和の末期から休眠状態であった名古屋古城会を、昨秋逝去された中島睦男様(高2)のご尽力で平成二〇年に再建することができました。名古屋地区唯一の武義高校同窓会の「灯」を消すことなく、本年五月の総会懇親会に向けて微力ながら頑張りたいと思っております。

そして、中島睦男様のご冥福をお祈り申し上げます。

### 古城会総会報告

古城会事務局

五十川 竣 哉

(高62回)

令和六年十月十二日(土)に、美濃緑風荘にて古城会総会を開催しました。総会には四十二名が参加されました。以下の次第にしがたって滞りなく議事が進行されました。

(司会：工藤副会頭)

開会のことば (工藤副会頭)

会頭挨拶 (土本会頭)

校長祝辞 (加藤校長)

来賓挨拶 (武藤美濃市長)

(佐藤県議会議員)

来賓紹介 (事務局 五十川)

議事 (議長：土本会頭)

①令和五年度会務報告

②令和五年度一般会計決算報告

③令和五年度特別会計決算報告



総会の様子(於：緑風荘)

- ④会計監査報告
  - ⑤令和六年度会務計画案
  - ⑥令和六年度会計予算案
- 閉会のことば (西村副会頭)
- その後、美濃市未来創造課の武義高生徒が『未来創造課の中間報告』という演題で講演しました。

### 同窓会総会での講演

美濃市未来創造課

「未来創造課の中間報告」

本年度、美濃市と岐阜県立武義高等学校の協定に基づき「未来創造課」が設置され、私たちはその職員として活動を行いました。高校生が美濃市役所で勤務し、市の課題解決に取り組むこの取り組みは、学生ならではの視点が生かされた新たな挑戦となっております。以下に活動の概要を報告します。

四月には辞令交付式が行われ、未来創造課の業務が本格的に始まりました。美濃市の課題を認識するために市内での調査を行い、「観光」と「防災」の二つの分野に焦点を当てた事業提案を市長に行いました。観光分野では花火大会での有料観覧席の設置や観光資源のPR活動を企画し、防災分野では若年層にも関心を持たれるVR防災訓練やイベントの提案が採用されました。



七月には名古屋市の商業施設で観光PR活動を実施しました。特産品や観光スポットを紹介しながら、市民花火大会での有料観覧席の販売も試みました。当初の販売数は少なかったものの、ネット販売で全席完売を達成することができました。さらに、花火大会当日には購入者へのおもてなしやアンケートを通じて次年度以降の改善点を見出しました。

### 同窓会実施の報告

【高二十一回生】



卒業五十五周年を迎えて私たちが卒業して半世紀という月日が経ったことに驚くとともに、元気に友と再会できたことを喜

ました。普通の高校生では体験できないような体験を数多くさせていただき、自分たちの力で課題を見つけ、解決することで大きく成長できたと感じていました。未来創造課での活動を通して美濃市がもっと好きになりました。このような活動ができたのも市長をはじめ市役所の職員の方々、地域の方々、同窓生の方々、武義高校の先生方のおかげです。本当にありがとうございます。

【高二十九回生】

五月晴れの五月三日(祝)正午より美濃市長良川畔の美濃緑風荘において、コロナ禍で開催が長らく延期になっていた高校二十九回生(昭和五十二年卒)同窓会を九十八名の参加を得て開催いたしました。

総会では川尻秀樹会長の挨拶の後、物故者追悼、会計報告、事業報告、次期役員選出(新会



長・福田真奈美さんを全会一致で承認等)を行い、次回開催を卒業五十年にあたる令和九年に決定しました。

懇親会では在校時の懐かしい画像や武義中・武義高創立百周年の事業報告のスライドショー、アトラクションのビンゴゲームで盛り上がり、次回令和九年の再会を誓い、全員で校歌を斉唱し散会しました。

【高三十五回生】

還暦を祝う同窓会を岐阜市のグランヴェール岐阜山で開き、



### 在校生の活躍

書道部 池田 絢 香

今年四月に武義高校に入学し、いくつかの部を見学しましたが、小さいころから書道塾に通っていたこともあり、書道部に入学しました。そして十月二十九日(火)十一月四日(月)に開催された岐阜県高等学校総合文化祭書道展において、大賞を受賞しました。

書道部では、塾とは違い中国や日本の古典を学び、特徴を捉えながら作品制作をしています。そして紙のサイズも様々あり、今まで使用したことのない二尺×八尺サイズ(約60cm×24cm)の画仙紙にも挑戦をしました。初めて見る古典の法帖(本)に戸惑いながら一緒に入学した仲間と切磋琢磨したことは、私にとって大変貴重な時間でした。また、今年の夏には、「第

七十四人が参加。二時間半があつという間に過ぎました。次回はオリンピック開催の四年後です。会場で集めた能登半島地震復興支援金の義援金二万六千四百八十五円は全額寄付させて頂きました。同窓会開催を一年前より準備していた古川才智英さんにみながら感謝です。



四十八回全国高等学校総合文化祭清流の国ぎふ総文」の書道部門が下呂市で開催され、入部してすぐに運営要員として仲間と活動を行い、下呂市では他校の書道部員と作業を共にすることで学校を越えた交流ができたことも良い経験となりました。

芸術の秋になると、市や県、全国の公募展、文化祭や地域の方々からの依頼で書道パフォーマンスを披露するなど、忙しい日々が続きましたが部員全員で乗り越えました。

このような経験から、二尺×八尺サイズの作品で大賞を受賞できたことは、自分一人の力ではないと考えています。筆づかいがうまく出来ないこと、途中で字を間違えてしまったこと、紙の上に墨をぼとりと落としてしまったことなど、失敗を繰り返しながら何枚も何枚も書き込

みました。しかし、思うようにいかない時を乗り越えられたのも、書道室で一緒に頑張った仲間がいたからです。

この先も、次々と公募展や大会が続きますが、楽しく一生懸命取り組める仲間と共にそれぞれの目標に向かって頑張っていきたいと思います。

**科学部 森 有彩**

私は科学部に入部したおかげで、将来の目標ができ、自分自身成長することができました。中学生の頃から化学が好きだったので武義高校に入る前から科学部に入部しようと決めていました。そして科学部に入部してからは同級生三人と共に二年半、ガラスについての研究に取り組みました。トンボ玉を作ることから始まり、二年生からはスキの灰を使ってガラスを作るといふ研究を行いました。様々な実験を行うなかで楽しさもありましたが、実験結果から考察をし、プレゼンや論文を作成するなど初めての経験もあり、とても苦労しました。

また、昨年度十一月に行われた県の研究発表会ではプレゼン発表だけでなく、ポスターを使って他校の生徒や審査員の方一人一人に説明をする審査がありました。人前で話すことが苦手な私にとっては大きな試練でしたが仲間のおかげで乗り越えることができ、優秀賞に選ばれ、

全国高等学校総合文化祭の出場を手にすることができました。その後は追加で実験を行ったり、校内の先生方やクラスメイトに発表を聞いてもらい何度も発表練習を重ねました。そして本番は緊張しましたが研究の成果を堂々と発表することができました。また開催県だったので大会の運営にも携わることができ、同じ高校生の姿から沢山の刺激を貰うことができました。

科学部での活動を通して、将来やりたいことが見つけたり、苦手なことにも挑戦することができた、科学部に入部して本当に良かったと思います。

**写真部 岡田 梨菜**

写真部として活動する中で、常識にとらわれず柔軟な考えを持つことを学びました。自分の思いが伝わる写真や、自分が撮りたい写真を撮るためには、被写体をどのように撮影するかが重要になります。例えば、人を撮影する場合、表情や光量をどのように扱うかを考え、長い時間をかけてより良いものにしようと試行錯誤を繰り返します。

さらに、思いを伝えるためにはタイトルも重要になります。そのため、複数のタイトルを考え、他の部員や顧問の先生に相談しながら時間をかけて決定しています。写真とタイトルのどちらも納得できるまで、時間を惜しまず取り組んできました。

二年生の夏には、チーム対抗の岐阜県写真選手権に出場しました。チームメンバーと意見を出し合いながらテーマを決定し、それを伝える写真を考えました。天候に左右されるなどの苦労もありましたが、納得するまで撮影を繰り返した結果、優秀賞を受賞することができました。また、個人では「故意にブレさせる」というテーマに挑戦した写真で奨励賞を受賞しました。新しい可能性を見つけ、自信をもつことができました。さらに秋には、高校生デジタルフォトコンテストで入賞に選出されました。SNSでアイデアを探し、それをもとに自分なりの発想を加えることで、オリジナリティのある写真に仕上げることができました。

部活動を引退するまでにはまだ一年近くあるため、テーマを考え、培ったテクニックを用いながら様々なことに挑戦して視野を広げ、さらに高みを目指した写真を撮影していきたいと思っています。

**水泳部 河合 愛優輝 後藤 梨歩**

武義高校のプールは老朽化のため、現在使用できません。そのため、放課後は関高校へ移動し、合同練習を行ったり、校内でできる体幹トレーニング、ラニンングを自分たちで考えて行ったりしています。また、市

民プールなどへ自主的に行き、貴重な泳ぐ機会を積極的につくり、泳力を伸ばすために頑張っています。先生方や地域の方、周りの人たちの支えがあつて、私たち水泳部は練習ができています。この思いを大切に日々努力し、周りの人から愛され、応援してもらえる団体でありたいです。

また、武義高校水泳部はリレーで東海大会出場を目指して練習してきました。リレーでは誰か一人の力に頼るのではなく、四人ともが泳力を伸ばしたいと考え努力しました。そのため一人一人が自分の課題に向き合い、課題意識をもって練習し、力を伸ばしました。水泳の競技人口は減っている中、武義高校では四人ともが高い泳力をつけ、東海大会に出場することができました。東海大会では県大会では味わうことのできない競技レベルや緊張感を感じることもできました。部員それぞれが頑張り、四人の力を合わせて泳ぎ切れたことが嬉しかったです。リレーを通して仲間と協力することの楽しさを実感することができました。今後も一人一人が頑張り、水泳部全体が成長できるよう、来年も東海大会出場を目指して頑張ります。

